

○研究の概要

育みたい幼児の姿・目指す児童の姿

5 歳児の姿

夢中で遊びこむことを通して、
意欲をもって物事に取り組める幼児

2 年生の姿

活動に没頭することを通して、
学び続ける児童

研究の仮説

- 幼稚園と小学校において共通の観点に基づいた教育課程を開発し、幼児の学びの芽生えを見取り、児童の自覚的な学びへつなげることで、主体的に学ぶ子どもが育つ。
- 教職員間の連携を強化し、相互理解を深めることで、幼児教育と小学校教育がより円滑に接続できる。

幼児教育と小学校教育の関連について

本園・本校では、以下の点に留意して研究を進めている。
幼児期の教育では、環境の中で遊びを通して総合的に学んでおり、その学びの多くは「学びの芽生え」である。一方、小学校の教育では教科学習が中心であり、発達段階に応じて「自覚的な学び」へとつながっていく。幼児教育と小学校教育は切り離されたものではなく、それぞれの特性を生かし学びの連続性を意識した保育・教育活動を行っていくことが重要である。

学びの芽生え・・・学ぶということを意識しているわけではないが、楽しいことや好きなことに集中することを通じて、様々なことを学んでいくこと。

↓
自覚的な学び・・・学ぶということについての意識があり、集中する時間とそうでない時間（休憩の時間等）の区別がつき、与えられた課題を自分の課題として受け止め、計画的に学習を進めること。

【『幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）』（文部科学省 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議）より】

研究の計画

- 幼稚園と小学校の合同研究組織による研究会等の実施
- 小学校の教科学習における具体的な姿と、それにつながる幼児期における具体的な姿の例から、子供たちのよりよい姿を伸長させるための活動や交流を検討し実施する。
- 幼稚園と小学校の円滑な接続を目指し、小学校施設内に幼児と児童が安心して自己を発揮できる環境「ななはけラボ」を設置し、活用を図る。

検証方法

- 保護者・児童・就学前教育施設と小学校の教職員への質問紙調査による結果検証
- 区学力調査の結果検証
- 3年間をひとまとまりとした指導計画による、幼児・児童の資質・能力で見取ったドキュメンテーションの作成

○「ななはけラボ」について

幼小の円滑な接続を図るための手だての一つとして、第七峡田小学校の校舎内に「ななはけラボ」を設置した。幼児や児童が生活や遊び、学習の中でこの部屋を活用していくことを通して、教育効果を一層高めることをねらっている。

5歳児にとっては、小学校の施設を活用することで、来年度の小学校生活への意欲を高めたり、小学生の活動に刺激を受けたりし、園での生活がさらに充実すると考えている。

1年生にとっては、保育室と似た環境が小学校にも用意されていることで安心感を得たり、自分の今までの生活経験を思い出しながら学校生活や学びに活かしたりできると考えている。

また、2年生にとっては、幼児期から1年生までの学びを想起したり、3年生に向け、学びの視点をより焦点化した学習活動を展開したりできると期待している。



保育室と教室の要素を併せ持つ環境で、5歳児から2年生までの子どもが主に活動する。

時期や活動に合わせて、教師や子どもが自在に環境を構成することが可能な施設となっている。

数量や図形にかかわる玩具や、季節の自然・行事についての本などを、自由に手に取ることができる。



○「ななはけラボ期案」について

「ななはけラボ」を通年で活用していくため、幼稚園の指導計画に合わせて小学校低学年も1年間を5期に分け、それぞれの期における主な活動についてまとめた「ななはけラボ 期案」を作成した。

その期における「ななはけラボ」を活用できる活動や、幼稚園や他学年との交流活動、「ななはけラボ」の環境構成などについてまとめている。幼稚園においては、小学生の活動に触れることで自分たちの活動や遊びに生かしたり、取り入れたりすることができるよう内容を記述した。小学校においては、生活科を中心に合科的な学習を目指し、どのような単元で活用が図れるかを記述している。また、生活科や国語科に関連する図書資料についても記載し、学校図書館との連携を行って活用を図ることができるようにしている。

ななはけラボ 期案 1年生	
第1期 (4月上旬～5月上旬)	
児童の姿	○春の自然に関心をもち、その変化に気付いたり、取り入れて遊んだりしている。 ○多くの児童が新しい先生や友達とかわかっていることを喜んでいて、中には戸惑いを感じている児童もいる。 ○小学校に入学した喜びを感じ、自分から進んで行動しようとしている。新しい環境に戸惑いを感じている児童もいるが、徐々に就学前施設や家庭と同じように安心して自己を発揮できるようになっている。
ねらいの重点	○春の自然に関心をもち、アサガオを育てる中でその生長について気付いたり、調べたりする。 ○新しい先生や友達と関わり、一緒に遊んだり思いを伝えたりすることを楽しむ。 ○小学校に入学した喜びを感じ、新しい環境に自分から関わり、学校生活のさまざまな活動に意欲をもつ。
ななはけラボ活動(案)	※1年生は発達段階を考慮し、生活科を中心とした単元の学習に各教科の指導事項を弾力的に取り入れる 【わくわく ときどき しょうがっこう】 ・学校探検をして、新しい環境に関心をもち、 ・見つけた言葉や数などについて、書き方や概念を知る。 ・人やもの、学習課題と出会い、自分たちの力で解決していく体験をする。 【さいわい に さいてね わたしの はな】 ・春の自然に関心をもち、校内で見つけた春の様子を共有する。 ・絵本「あさがお」を読み、アサガオの生長に関心をもち、 ・アサガオの育て方について調べ、プランターに種子を植える。
交流活動	【がっこうたんけんをしよう】1年生と2年生 ・2年生に校内を案内してもらいながら、学校施設やそこで働く人々に親しむ。 ・活動を振り返り、学校施設についての発見を楽しんだり、やってみたいことを見出したりする。
☆環境構成	☆町屋幼稚園や近隣の就学前施設の環境構成を参考に、教室と保育室の両方の要素を盛り込んで環境設定をする。 ☆常設の本棚に、学校図書館や学級文庫にはない絵本や図鑑などを用意し、ななはけラボで過ごすことが楽しみなような環境を作る。 ☆廊下側壁面には、昨年度の5歳児・1年生・2年生の活動を写真や文字で掲示し、今までの類似経験を想起させたり、活動の見通しをもたせたりすることができるようにする。
☆指導のポイント	○教室同様、ななはけラボで過ごすことにも期待をもつことができるような言葉かけを。 ○1年生1期については「環境に慣れる」ことに重点を置き、教科の学習の時間に限らず、自分の好きな遊びを選択したり、友達と関わりながら遊んだりするための場としても活用する。
本棚	○春の草花や自然 ○アサガオ(生長や育て方について) ○5歳児の保育室に設置していた絵本
幼小交流	【幼保小中交流会】 ・近隣の就学前施設の保育者が1、2年生の授業を参観した後、意見交流会を設ける。 【町屋幼稚園・第七峡田小学校 相互参観①】(1、2期をまたいで行う) ・5歳児分科会、1年生分科会、2年生分科会それぞれで時間を設定し、相互に参観の機会を設ける。(年間3回実施) ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を共通理解の上、参観する。